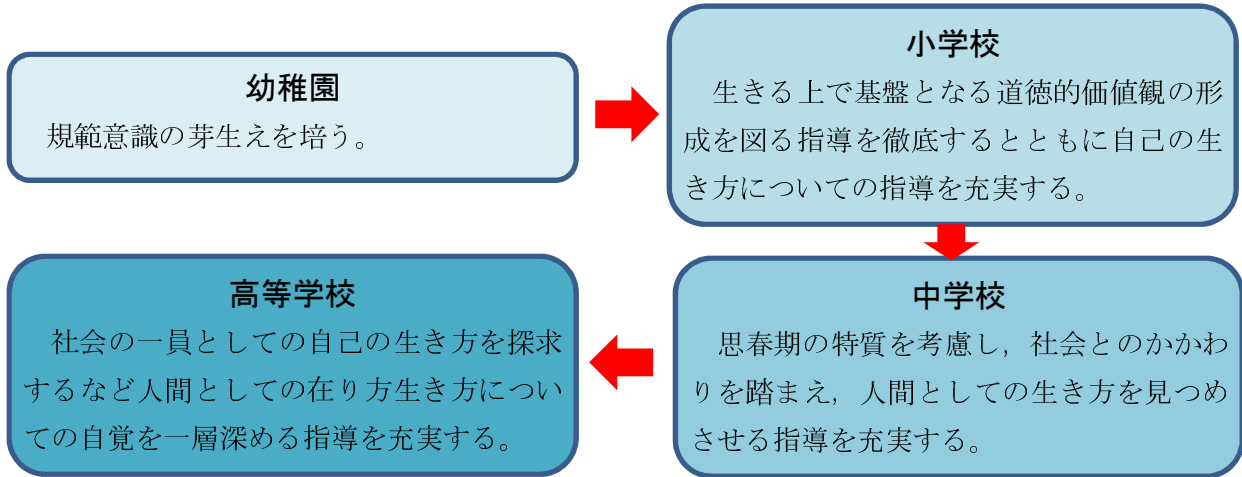


1 道徳教育の基礎・基本

(1) 学校段階に応じた道徳教育

道徳教育はすべての学校段階において一貫して取り組むべきものであり、幼稚園、小・中・高等学校の学校段階や小学校の低・中・高学年の各学年段階ごとにその重点を明確にし、より効果的な指導が行われるようにすることが必要です。



ア 道徳教育のねらい

小・中学校…豊かな心をはぐくみ、人間として生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする。

高等学校…豊かな心を持ち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする。

道徳教育を通じて育成される道徳性は、「豊かな心」はもちろん、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、児童生徒の「生きる力」を根本で支えるものです。



イ 道徳教育の進め方

小・中学校…道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、(外国語活動 ※小学校のみ)、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

高等学校…公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目等の特質に応じ学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行う。



高等学校の道徳教育は、小・中学校と異なり道徳の時間が設けられていないので、小・中学校における道徳教育を踏まえつつ、教育活動全体を通じて指導するための配慮が必要です。

(2) 道徳教育の要としての道徳の時間

ア 道徳の時間の目標

各教科，外国語活動（※小学校のみ），総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によって，各教育活動において行われる道徳教育を補充，深化，統合し，道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考え（※中学校では，下線部が“道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚”となる）を深め，道徳的実践力を育成する。

イ 道徳の時間の特質

児童生徒一人一人が，一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ，道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考え（※中学校では，下線部が“道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚”となる）を発達の段階に即して深め，内面的資質としての道徳的実践力を主体的に身に付けていく時間です。

ウ 道徳的価値の自覚

- 道徳的価値について理解すること（価値理解，人間理解，他者理解）



「こういうことって大切なことだな。」
「こんな生き方があるんだな。」
「こんな考え方ってとてもいいな。」

- 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること（自己理解）

「自分はどうかろうか。自分にもこんないいところがあるぞ。」
「自分はこんな考え方だけど，ああいう考え方って自分にはなかった考え方だな。」



- 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること（自己発展）



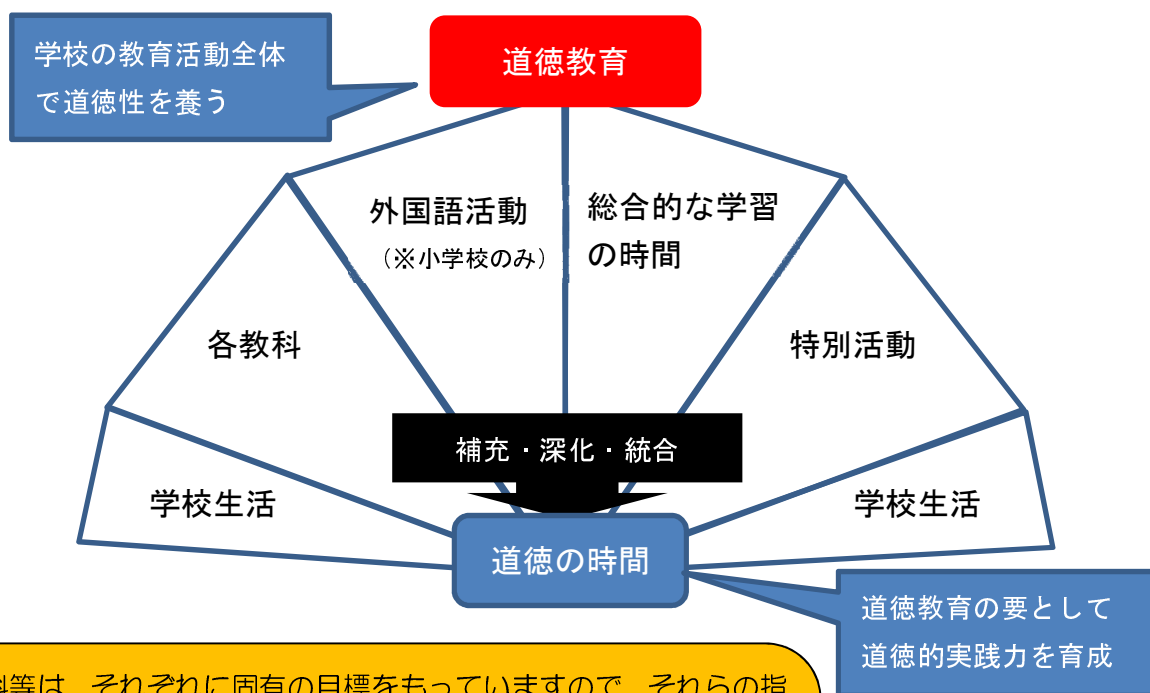
「こんな考え方を自分もできるといいな。」
「こんな生き方をしてみたい。」
「自分のこんな考え方や生き方を大切にしていこう。」

ここがポイント！

- 道徳の時間は，児童生徒がねらいとする道徳的価値を自己とのかかわりにおいてとらえることができるように指導方法を工夫しましょう。
- 道徳の時間は，教師自らが児童生徒と共に考え，悩み，感動を共有しながら，学んでいくという姿勢で授業に臨みましょう。

(3) 道徳教育と道徳の時間の関係

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて、道徳性を養うことを目標としています。道徳の時間は、道徳教育でとらえた道徳的諸価値を補充、深化、統合する計画的・発展的な学習により、道徳的実践力を育成する要となる時間として位置付くものです。



各教科等は、それぞれに固有の目標をもっていますので、それらの指導の中で行う道徳教育が、道徳教育としては断片的であったり、徹底を欠いたり、必ずしもそれだけでは、十分な成果をあげることができない場合もあります。したがって、その断片的な不十分さを補充し、掘り下げを欠いた不十分さを深化して、それらの指導を統合する道徳の時間がどうしても必要になってくるのです。



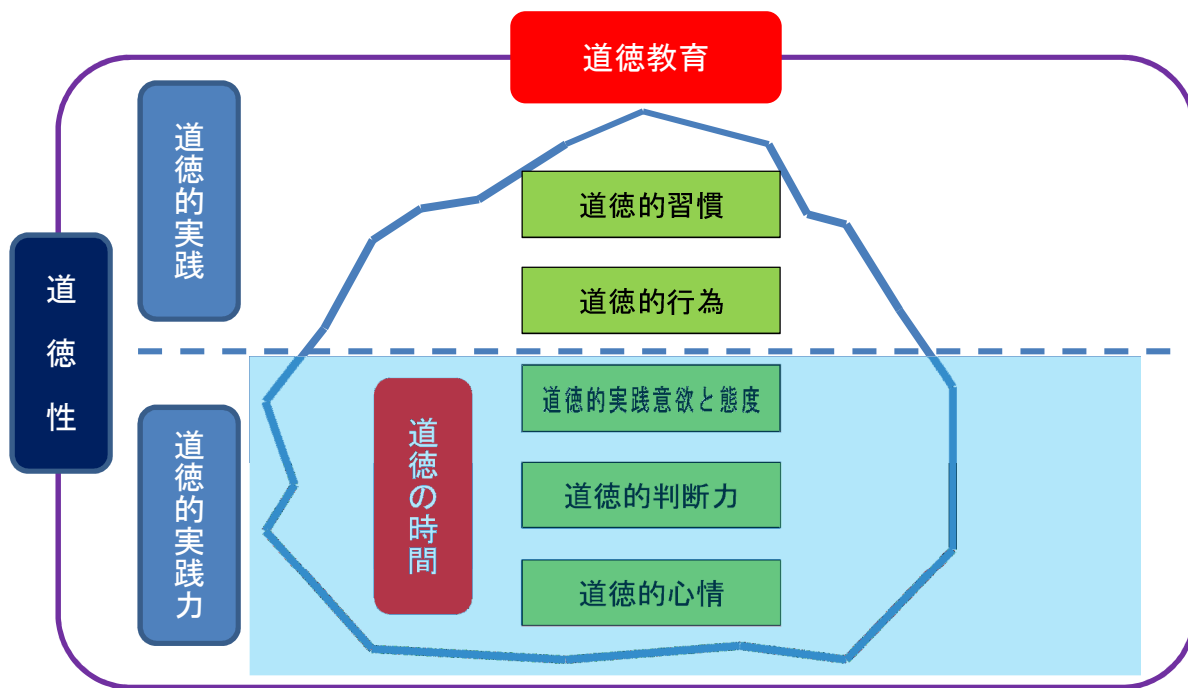
補充、深化、統合とは
 補充…学校の諸活動で考える機会が少ない道徳的価値について補う。
 深化…道徳的価値の意味について、理解を深める。
 統合…様々な活動で得られた道徳的価値を結び付ける。 ことです。

ここがポイント！

- 道徳の時間は、扇の「要」のように、各教育活動における道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割をもっています。
- 道徳性をはぐくむために、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間及び特別活動においてもそれぞれの特質に応じて適切な指導を行いましょう。

(4) 道徳性と道徳的実践力

道徳教育で養う道徳性は、道徳的行動や道徳的習慣までも含めた人格的特性ですが、道徳的実践力は、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行動を主体的に選択し、実践することができる内面的資質のことです。



道徳の時間の指導は、児童生徒の行動の変容を直接的にねらいとするものではありません。教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように留意しましょう。



ここがポイント！

○ 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。

○ 道徳的判断力

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下で人間としてどう対処することが望まれるかを判断する力。

○ 道徳的実践意欲と態度

道徳的実践意欲は、道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられた道徳的な行動への身構え。

○ 道徳的習慣

長い間繰り返しているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方。

○ 道徳的行動

それぞれの場面における、道徳的実践力に裏付けされた機に応じた行動。

(5) 道徳教育の内容

ア 四つの視点

道徳教育の内容については、小・中学校の各学年・学校段階において四つの視点に分けた内容項目として示されています。この四つの視点は、相互に深い関連をもっており、各学年・学校段階において、関連を考慮しながら、四つの視点に含まれるすべての内容項目について、学校の教育活動全体を通じて適切に指導していくことが大切です。

1の視点

主として自分自身に関すること

- 基本的な生活習慣・節度節制
- 希望・勇気・強い意志
- 自主自律・誠実・責任 など

2の視点

主として他の人とのかかわりに関すること

- 礼儀 ○人間愛・思いやり
- 信頼・友情 ○異性の理解
- 尊敬・感謝 など

3の視点

主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

- 生命尊重 ○自然愛・動植物愛護
- 畏敬の念 など

4の視点

主として集団や社会とのかかわりに関すること

- 勤労・奉仕・公共の福祉 ○家族愛
- 愛校心 ○郷土愛 など

イ 指導内容の重点化

道徳教育を進めるに当たっては、児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえるとともに、学校、地域等の実態や課題に応じて、学校全体及び各学年段階の指導内容ごとの重点化を図ることが大切です。

小学校		中学校
・自立心や自律心		・生命を尊重する心
低	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣 ・社会生活上のきまり ・善悪の判断 ・人間としてしてはならないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・規律ある生活ができ、自分の将来を考える ・法やきまりの意義の理解を深める ・主体的に社会の形成に参画 ・国際社会に生きる日本人としての自覚
中	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や社会のきまり ・身近な人々と協力し、助け合う 	
高	<ul style="list-style-type: none"> ・法やきまりの意義を理解 ・相手の立場を理解し、支えあう ・集団における役割と責任 ・国家・社会の一員としての自覚 	

社会的な要請や今日的課題を考慮し、次のような内容の指導について配慮が求められています。



ここがポイント!

- 重点内容については、指導時数を増やしたり、他の教育活動との関連を図った道徳学習プログラムにしたりするなどの工夫をしましょう。
- 内容項目を児童生徒の立場から具体的にとらえるために「私たちの道徳」を活用しましょう。